



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 92

Feb. 2024

目 次

○諸報告

- 2024 年度第 23 回日本植物分類学会賞
(学会賞・奨励賞) 受賞者の決定 2
- 2024 年度第 18 回日本植物分類学会論文賞の決定 3
- 東アジア国際植物分類学シンポジウム
“The 10th East Asian Plant Diversity and Conservation
Symposium 2023” の報告 3
- ポスター賞受賞者の声 5
- 東アジア国際植物分類学シンポジウムに参加して 6
- 2023 年度日本植物分類学会講演会の報告 6
- 日本植物分類学会講演会に参加して 6
- 2024 年度メール評議員会議事抄録 8

○お知らせ

- 総会のお知らせと審議事項 9
- 2023 年度事業報告(案) 9
- 2024 年度事業計画(案) 13
- 日本植物分類学会第 23 回大会実行委員会からのお知らせ . 17
- NHK 連続テレビ小説「らんまん」制作チームへの特別
賞授与のお知らせ 18
- 名誉会員推薦のお願い 18
- 会員消息 18

諸報告

2024 年度第 23 回日本植物分類学会賞 (学会賞・奨励賞) 受賞者の決定

学会賞選考委員会委員長 梶田 忠

推薦人からお寄せいただいた候補者の研究概要や業績リスト等の資料をもとに、学会賞選考規定に則り、選考委員会にて選考を進めました。その結果、学会賞受賞者 2 名、奨励賞受賞者 3 名が選ばれました。受賞者の名前と選考の理由を以下に報告します (敬称略。各賞それぞれ五十音順)。

学会賞：今市 涼子「植物形態の多様化の比較発生学的研究」

シダ植物および種子植物の進化形態学分野において極めて優れた業績を挙げられました。特に、植物分類学の基盤である形態の多様性がどのようにして生じるのかを明らかにした比較発生学的研究は特筆に値するものであり、植物分類学だけでなく、植物形態学や植物学全般においても特に顕著な貢献であると評価されました。また、指導者としての実績も素晴らしく、本学会の研究分野と人材の多様性向上に大いに貢献されました。なお、日本植物分類学会賞の受賞者では、初の女性研究者となります。

学会賞：薄葉 満「福島県を中心とした植物相と水生植物の研究」

福島県植物研究会の会長、東北植物研究会の福島県幹事、1987 年発行の福島県植物誌の編集委員など、福島県の非職業研究者のリーダーとして活躍してこられました。特に東北地方の水生植物フロアの研究では、長年にわたる地道な調査を通じて多くの新知見を提供されました。また、最近では、尾瀬ヶ原の調査チームの一員としてもご活躍です。それらの成果は数多くの論文や著書「ふくしまの水生植物」として出版されており、非職業研究者としての素晴らしい業績が、植物分類学と分類学会への特に顕著な貢献であると評価されました。

奨励賞：首藤 光太郎「イチヤクソウ属の系統分類学的研究および北海道・東北地方を中心とした地域植物相の研究」

イチヤクソウ属の植物に見られる菌従属栄養性の進化の研究や、水生植物の分類学的研究など、植物進化学や植物分類学の分野において数々の優れた業績を挙げられました。また、北海道や東北地方を中心とした地域の植物相に関する極めて多くの研究業績は、特筆に値します。今後も日本の自然史研究の発展に向けて活躍して下されことが期待されます。

奨励賞：須貝 杏子「生態遺伝学的手法による日本の島嶼地域における植物種の多様化の解明」

小笠原諸島、琉球列島、隠岐諸島など、日本の島嶼地域における植物種の多様化を、生態遺伝学的手法を用いて研究し、顕著な業績を上げられました。これらの「島」に焦点を当てた様々な植物種に関する研究は、ユニークで優れたものであるとして高く評価されました。この研究テーマを今後も大きく発展させて下さると共に、多くの学生を指導して下さることが期待されます。

奨励賞：渡辺 洋一「ツツジ属を中心とした進化・種分化・多様性創出メカニズムの解明」

ツツジ類を中心に実施された日本の温帯植物の多様性創出に関する研究は、様々な集団解析や系統地理学的解析を用いた質の高い論文として発表されており、優れた研究業績として高く評価されました。また、ツツジ・シャクナゲハンドブックに代表される研究業績では分類学関連の優れた実力を示されていることから、今後もツツジ類の分類のスペシャリストとして、分類学会を舞台に活躍して下さることが期待されます。

2024 年度第 18 回日本植物分類学会論文賞の決定

論文賞選考委員会委員長 布施 静香

2024 年度第 18 回日本植物分類学会論文賞は、2023 年に出版された英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』74 巻および和文誌『植物地理・分類研究』71 巻に掲載された論文のうち、編集委員および論文賞選考委員から推薦された論文 8 編を論文賞選考委員会において審査し、次の 2 論文に決定しました。

Yoneoka, K., Hori, K., Kataoka, T., Fujiwara, T., Ebihara, A. and Murakami, N. 2023. Hidden diversity of ferns: *Haplopteris mediosora* have survived as independent gametophytes in Japan. Acta Phytotax. Geobot. 74(1): 1-15.

選考理由：本論文は、日本で 50 年以上確認されていなかったイトシシランについて、独立配偶体として残っているのではないかという仮説の元、奥秩父でシシラン類と推定される配偶体マツを精力的に探索し、DNA バーコーディングで探し当て、観察により独立配偶体であることを明らかにした。配偶体のみで生育しているシダ植物が日本で見過ごされていたことを明確に示した点が評価でき、本研究が、今後シダ植物の未記録種や絶滅したと考えられている種の再発見に繋がると期待される。

Takahashi, K. T., Oda, J., Fuse, S., Yano, O., Lu, Y.-F., Jin, X.-F. and Tamura, M. N. 2023. Biosystematic Studies of *Carex* (Cyperaceae) III. Phylogenetic analyses of the *Carex filipes* complex (sect. *Paniceae*) in East Asia, with reference to morphology, karyology and taxonomy. Acta Phytotax. Geobot. 74(2): 71-103.

選考理由：本論文は、その分類に関して諸説のあったタマツリスゲ類について、形態、分布、染色体、DNA を含む様々な角度から包括的に再検討を試み、十分な説得力をもって 2 新種を含む種の新しい認識を提案したものである。そして、分類形質の少ないグループにもかかわらず客観的な形質に基づく利便性の高い検索表を作り上げている。海外を含めて分布域を網羅するよう集められた多くのサンプル・標本から得られたデータは信頼できるものであり、多くの在野の研究者の助けを受けながら日本全国の植物を研究したことも本賞に相応しいとして評価された。

東アジア国際植物分類学シンポジウム “The 10th East Asian Plant Diversity and Conservation Symposium 2023” の報告

国際植物分類学シンポジウム 2023 実行委員会委員長 厚井 聡

2023 年 10 月 28 日から 30 日にかけて、東アジア国際植物分類学シンポジウム「The 10th East Asian Plant Diversity and Conservation Symposium 2023」が大阪公立大学の田中記念館（大阪市）で開催されました。

東アジア国際植物分類学シンポジウムは、日本植物分類学会、中国植物学会・系統分類進化分会、韓国植物分類学会が連携し、2008 年より 2 年ごとに開催されてきました。日中韓 3 ケ国で植物多様性を研究する研究者、特に若手研究者に東アジア産の植物に関する最新の情報あるいは研究アイデアを交換する機会を提供し、将来の共同研究を促進することが大きな目的です。

今回のシンポジウムには、日本から 49 名（現地 30 名、オンライン 19 名）、中国から 7 名（現地 3 名、オンライン 4 名）、韓国から 24 名（現地 21 名、オンライン 3 名）の合計 80 名が参加しました。残念ながら、中国の植物学関連の学会と日程が重なったため、中国からの参加者が少なくなっていました。

シンポジウムでは、17 題の口頭発表と 35 題のポスター発表が行われました。口頭発表は「Systematics and

Evolution of Plants in East Asia (東アジアの植物の系統分類と進化)」「Plant Diversity and Phytogeography of East Asia (東アジアの植物多様性と系統地理)」「Threatened Plants and Their Conservation (絶滅危惧植物とその保全)」の3つのセッションに分けて、いずれも対面とオンライン (Zoom Meetings) の両方を組み合わせたハイブリッド形式で実施しました。ポスター発表は、LINC Biz を用いたオンライン形式で行ったほか (ポスター掲示期間: 2023 年 10 月 27 ~ 11 月 10 日)、概要を短時間で紹介する口頭発表 (ポスターフラッシュ) をハイブリッド形式で行いました。また、若手研究者による優れた発表 5 題にポスター賞を授与しました。受賞者から届いた喜びのコメントを掲載していますので、ぜひご覧ください。

初日の夕方には、大阪公立大学のイタリアンレストランで懇親会を開催し、47 名が参加しました (天王寺駅周辺で有志による二次会も開催されました)。2 日目の午後は大阪公立大学附属植物園 (大阪府交野市) でエクスカージョンを行い、展示されている樹林や国内外の植物を観察しました。3 日目には兵庫県の武庫川溪谷 (西宮市・宝塚市) でエクスカージョンを行い、日本の固有種や溪流植物などの野生植物を観察しました。その後、武田尾温泉の老舗旅館でぼたん鍋と温泉を楽しみました。



図 1. 大会会場での集合写真



図 2. エクスカージョンの様子

大阪公立大学附属植物園 (左) 武庫川溪谷 (右上, 右下)

前回のシンポジウムはオンライン形式での開催であったため、懇親会やエクスカージョンは実施されませんでした。今回、久しぶりに対面で開催できたことにより、研究に関する情報交換に加えて、親睦を深めることもできたのではないかと思います。2 年後は中国での開催となります。今回よりもさらに多くの研究者が集まり、東アジアの植物に関する研究が発展する機会となることを期待したいと思います。

最後になりますが、本シンポジウムを無事に開催できたのは国際シンポジウム準備委員会委員長の池田博博士が長年準備を進めてくれたおかげです。実行委員会ならびに日本植物分類学会の皆様には、多大なご協力をいただきました。Jin Xiao-Hua 博士 (中国科学院植物研究所) ならびに Jang Chang-Gee 博士 (韓国公州大学校) をはじめとする中韓の植物分類学会関係者の方々にも大変お世話になりました。ご参加いただいた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

収支報告概要

収入		支出	
科学研究費補助金 (研究成果公開発表 C)	1,449,199	会場借料	0
学会からの補助 (特別会計)	234,628	消耗品費	71,599
参加費 (含 懇親会費)	432,000	旅費	958,779
雑収入	3,000	人件費・謝金	342,050
		その他	240,225
		懇親会費	181,000
		エクスカージョン費	325,174
計	2,118,827	計	2,118,827

ポスター賞受賞者の声

Yamaguchi M., Kikuchi N., Yoshida T., Okuyama Y., Murakami N. Discovery of unique pollinators of the Japanese endemic golden-saxifrage, *Chrysosplenium* ser. *Macrostemon*.

このたびはポスター賞に選んでいただき、ありがとうございました。これまで多くの方々のご支援とご協力をいただき、新しい共生系の発見という成果をあげることができました。この場をお借りして、感謝申し上げます。この研究はまだ始まったばかりで、まだまだ分からないことがたくさんあります。これから博士課程でさらに研究を深めていきたいと思っておりますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。(東京都立大学・山口万里花さん)

Mouri H., Tatsumi M., Nishino T., Suzuki T., Morita T., Pak J.-H., Ito M., Iwasaki T. Molecular phylogenetic analysis of *Taraxacum* species in East Asia using chloroplast genome and nuclear ribosomal DNA sequences.

ポスター賞、どうもありがとうございました。タンポポ属の種分化に関する発表は、3月の分類学会では受賞まであと一歩届かず次点だったため、今回賞をいただけたことは大変嬉しく思います。サンプル集めなどでお手伝いくださった方々にお礼を申し上げます。今後もタンポポ属の進化史の解明を目標に、アジア圏全体のサンプルを増やし、手法の幅を広げていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。(お茶の水女子大学・毛利陽香さん)

Jung U.-C., Cho M.-S., Jeon J.-H., McCauley R., Kim S.-C. Korean barberry *Berberis koreana* and Fendler's barberry *B. fendleri* (Berberidaceae): Comparative population genetic analyses of intercontinental disjunction species.

Thank you so much for this poster award. Especially, I would like to express my gratitude to the lab members at Sungkyunkwan University who conducted the research with me. The 2023 EAPDC held at Osaka Metropolitan University was a meaningful time where we were able to share our research with many researchers from different countries. Encouraged by this experience, we are going to continue our research to understand the genetic diversity patterns of intercontinental plant species pairs. (Sungkyunkwan University, Korea • Jung さん)

Chang J.-T., Nakamura K., Chao C.-T., Luo M.-X., Liao P.-C. Impact of gene flow on the evolution of *Cycas revoluta* Thunb.

The poster is part of my PhD thesis that has recently been published. Because the study was fulfilled with cooperation to Koh Nakamura san, and also the material *C. revoluta* is naturally thrive in Japan. Therefore, the conference this time in Japan is timely and suitable for me to summarize my work. It is an honor for me to get the award, and I will keep working and contributing in this field. Thank for the committee for symposium organizing and connecting the biological science community in Asia. (National Taiwan Normal University • Chang さん)

Masuda R., Fuse S., Noda H., Ikeda H., Lee N.-S., Pak J.-H., Pooma R., Yang Y.-P., Pu F.-D., Tamura M. N. Plastome phylogeny and karyotype evolution of *Polygonatum* (Asparagaceae).

この度はポスター賞を賜りありがとうございます。このような名誉ある賞を頂くことができ、大変光栄に思います。本研究は、日本の方々だけでなく、韓国、中国、タイの方々も含めた多くの方々のご協力やお力添えを賜ることにより、ここまで進めて来ることができました。心より感謝いたします。これを励みとして一層研究に勤しみ、クサスギカズラ科の多様化の歴史を明らかにしていきたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。(京都大学・増田理子さん)

東アジア国際植物分類学シンポジウムに参加して

岩崎 貴也（お茶の水女子大学）

最初に、本シンポジウムを準備・運営してくださった全ての方々に、心からお礼申し上げます。今回は久しぶりの対面開催で、会場のあちこちで再会を喜び握手や抱擁が多く見られたのがとても印象的でした。私自身、何年もお会いできていなかった方々と久しぶりに直接会ってお話してきたのがとても嬉しかったです。研究発表では、前回以上にゲノム解析やターゲットキャプチャーシーケンスなど、大規模データを用いた研究がさらに増えている（というより、当たり前になっている？）印象を受けました。勉強になることがとても多く、生の研究発表として東アジアの植物に関する最新の研究を一気に聞くことができる本シンポジウムは改めて良い機会だなと感じました。

また、今回は研究室の学生にも積極的に参加を勧め、修士課程1年の学生2人がポスター発表にチャレンジしてくれました（そのうちの一人の毛利陽香さんの東アジア産タンポポ属の系統解析に関する発表では、ポスター賞も頂くことができました）。対面で参加した高橋弥生さんは韓国や中国の研究者と積極的に交流し、さっそく今後の共同研究のためのネットワークを築くことができたようでした。

2年後に中国で開催される予定の次回も、日中韓から学生を含む多くの研究者が参加し、充実した楽しいシンポジウムになることを願っています。もちろん、私自身も学生と一緒にぜひまた参加したいと思っています。

2023年度日本植物分類学会講演会の報告

2023年度講演会担当委員 高山 浩司

23回目の日本植物分類学会講演会が、2023年12月9日（土）に大阪学院大学ならびにZoomを用いたオンラインで開催されました。開催に関する情報は、学会メーリングリスト、ホームページ、ニュースレターおよびTAXA・EVOLVE等のメーリングリストによって行われ、合計240名の事前申込がありました。当日は会場参加者が40名、Zoomの同時接続者が常に120名前後と、全国の多くの方々にご参加いただきました。開催当日も大阪学院大学の事務職員やIT技術者の方に全面的な協力を頂き、無事にハイブリッド形式で講演会が行われました。また、4年ぶりとなる懇親会も開催することができ、素晴らしい交流の機会となりました。

今回は6名の先生方に下記の順でご講演いただきました。

佐藤 博俊（京都大学） 「ハラタケ綱菌類の種多様性の起源」
山尾 僚（京都大学） 「身近な雑草から探る植物の柔軟な生きざま」
渡邊 誠太（大阪公立大学）「ユリ属は面白い！ - 系統分類からわかったこと -」
廣田 峻（大阪公立大学）「東アジアで多様化したキスゲ属」
村上 哲明（東京都立大学）「牧野富太郎博士が遺した植物標本と日本の植物分類学への貢献」
岡崎 純子（大阪教育大学）「島嶼環境に直面した広域分布種の送粉生態型分化」

ご多忙中にも関わらず、快くご講演を引き受けてくださった演者の皆様、長時間お付き合いくださった参加者の皆様、質問やコメントで講演会を盛り上げてくださった方々、会場の手配をしてくださった大阪学院大学の林一彦先生に厚く御礼申し上げます。

日本植物分類学会講演会に参加して

塚本 佳生（京都大学理学部）

植物分類学会講演会に現地から参加させていただきました。

参加は三度目でしたが、幅広い分野のお話を伺うことができ非常に有意義でした。

佐藤先生のご講演は、ハラタケ綱担子菌の種多様性の起源に関するものでした。美しい写真を交えながら各分類群のご紹介をされ、多様性を実感することができました。その多様化が白亜紀後期の被子植物との外生菌



図1. 講演会の集合写真（撮影者：ベレス フェルナンド）



図2. 懇親会の集合写真（撮影者：ベレス フェルナンド）

根共生の獲得を Key innovation として起きたことを、高精度な分子系統解析と3通りの手法を用いた多様化速度推定に基づいて提唱されていて、解析手法の面からも勉強になりました。特に、以前から裸子植物と共生していた系統ではなく、白亜紀後期に出現し被子植物と共生する5系統で独立に急速な多様化が見られた点を興味深いと感じました。

山尾先生のご講演は、植物の自己や血縁認識に関するものでした。身近な植物の観察結果をもとに仮説を立て、様々な実験によって検証していく様子は心躍るものでした。クローナル植物の自己認識において、ヤブガラシなどのつる植物では生理的接続が必要である一方で、むかご形成植物では必要でないことは驚きでした。また、血縁認識や情報統合を明らかにされたオオバコをモデルとして今後も研究を展開されるということで、更なる発展が期待されました。懇親会では血縁認識が個体群動態に与える影響について詳しく伺うことができ、充実した時間でした。

貴重なご講演を頂いた先生方、開催に尽力くださった皆様に感謝申し上げます。来年以降も楽しみにしております。

高橋 弥生（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

私にとって今回の講演会は初めての植物分類学会の講演会であり、オンラインで参加させていただきました。講演者の皆様が最新の研究内容をわかりやすくお話いただき、学びを深める良い機会になりました。

渡邊先生には、日本のユリ属の系統分類についてお話いただきました。分類の混乱していたユリ属について、系統解析と詳細な形態解析から分類を整理されていく様子からは、研究対象に対する強い愛を感じました。幼少期から注目されていた花の軟状構造が、識別形質として重要であることが明らかになったというお話を聞いて、系統分類の面白さを再認識しました。

廣田先生には、東アジアで多様化したキスゲ属について、分子系統解析や送粉者を用いた訪花実験などから得られた研究成果についてお話いただきました。花形質の違いと送粉者の誘因の関係において、花色の違いが劇的な送粉者の違いをもたらす訳ではなく、むしろ昼咲・夜咲のような開花時間の違いが種分化における重要な生殖隔離機構となっている可能性を明確に示されていた点に感銘を受けました。

本講演会は対面・オンライン同時開催で、参加しやすかったです。ご講演下さいました皆様と、講演会の運営に携わった関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

後藤 菜那（熊本大学大学院自然科学教育部）

植物分類学会の講演会への参加は初めてでしたが、貴重なお話を楽しく拝聴することができました。

村上先生には牧野富太郎博士が遺された植物標本と植物分類学への貢献に関してご講演いただきました。日本各地を巡り、膨大で美しい植物標本を作成されたこと、その道中で植物愛好家の指導・育成に熱心に取り組まれたことなど、牧野博士が「日本の植物分類学の父」と称される理由を知ることができました。また牧野博士が遺された標本を含めた植物標本の意義や活用に関するお話から、標本がもつ可能性と価値は時代の変化や技術の進歩に伴い、今後さらに高まっていくのだろうと考えました。

岡崎先生には広域分布種ツリガネニンジン（伊豆諸島）の送粉生態型分化に関してご講演いただきました。

伊豆大島と三宅島の訪花昆虫の利用や形態には違いがあり、伊豆諸島内で送粉生態型に分化が起きているというお話から、明瞭な形態的分化や遺伝構造がみられない種群でも島嶼の環境に適応してきた歴史はしっかりと残されていると感じ、興味深いと思いました。また緻密なフィールド調査や形態観察、葉緑体 DNA を用いた解析を行い、島嶼環境での分化にアプローチされていることから、対象種を多角的な視点から見つめ、真摯に向き合うことの重要性を感じました。

最後にご自身の研究や植物分類学の歴史について丁寧にお話くださった講演者の皆様、講演会の企画・運営に関わった皆様に感謝申し上げます。

2024 年度第 1 回メール評議員会 議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

2024 年 1 月 14 日から 1 月 27 日にかけて、2024 年度第 1 回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。この評議員会は主に 2023 年度の事業報告案と決算案、および 2024 年度の事業計画案と予算案について、3 月の総会までの間の学会運営のために暫定的な審議をしていただくものです。

また、今回のメール評議員会では、植物分類学分野の普及に大きく貢献した NHK 連続テレビ小説「らんまん」の制作チームへの学会からの特別表彰を提案し、審議いただきました。

開催日時：2024 年 1 月 14 日～1 月 27 日

開催方法：電子メール媒体を用いた会議

参加者：評議員全員

議長選出：慣例にしたがい会長を議長とすることに、反対はなかった。村上哲明会長を議長とした。

1. 審議事項

第 1 号議案 2023 年度 事業報告案、および決算案

第 2 号議案 2024 年度 事業計画案、および予算案

以上のふたつの議案は、2024 年度総会議案と重複するため、掲載を省略させていただきます。総会議案（9～16 ページ）をご参照ください。

第 3 号議案 NHK 連続テレビ小説「らんまん」の制作チームへの特別表彰について

NHK 2023 年度前期に放映された連続テレビ小説「らんまん」の制作チームに対し、本学会の学術分野の普及について貢献したことを評価し、学会として特別表彰を行うことを提案する。

提案理由は、会則第 4 条「本会は、第 2 条の目的を達成するために、次の事業を行う。」の第 6 項「(6) その他、第 2 条の目的を達成するために必要な事業」に基づき（ちなみに、第 2 条は「本会は、植物分類学の研究の進展と知識の普及を図り、もって学術の発展に寄与することを目的とする。）」、植物分類学の知名度を上げることに貢献したことに対し表彰を行うことは、第 2 条の目的に適った、必要性のある事業と考えられる。

また、表彰は、第 23 回大会（仙台）にて学会賞等の授与式に続いて行う予定である。

2. 審議結果

第 1 号から第 3 号議案は、修正を経て承認多数で可決された。委任状はなかったが、白票扱いがあった。

第 1 号議案【賛成 12 票、反対 0 票、白票 1 票】

第 2 号議案【賛成 12 票、反対 0 票、白票 1 票】

第 3 号議案【賛成 12 票、反対 0 票、白票 1 票】

3. 議事録署名人

議事録署名人として海老原 淳氏と布施 静香氏が選出された。

お知らせ

2024 年度総会のお知らせと審議事項

庶務幹事 西野 貴子

来たる 3 月 11 日（月）の総会にて、下記の議案が審議されます。今回の総会は、第 23 回大会会場の東北大学片平キャンパス「片平さくらホール」での現地開催のみとなります。ご参加が難しい場合には、電子メール、ファックス、もしくは郵送にて、次の庶務幹事宛てにご意見等を事前にお寄せください。

庶務幹事連絡先 西野 貴子

jimu@e-jsps.com, Fax : 072-254-9932（西野宛をご明記ください）

〒599-8531 堺市中区学園町 1-2 大阪公立大学 大学院理学研究科 C10 棟

第 1 号議案 2023 年度事業報告案（9 ページ参照）、2023 年度決算案（11 ページ参照）

第 2 号議案 2024 年度事業計画案（13 ページ参照）、2024 年度予算案（15 ページ参照）

第 1 号議案

2023 年度事業報告（案）

庶務幹事 西野 貴子

(1) 集会等の開催

・学術集会、講演会、研修会

年次学術集会として、日本植物分類学会 第 22 回千葉大会を 3 月 1 日（水）～ 3 月 5 日（日）に千葉大学にての現地、およびオンライン配信でのハイブリッド方式で開催した。

2023 年度講演会を 12 月 9 日（土）に大阪学院大学にての現地、およびオンライン配信でのハイブリッド方式で開催した。

2023 年度野外研修会は、富山県中央植物園の中田政司氏にお世話いただき、8 月 1 日（火）～ 8 月 2 日（水）に富山市有峰県立自然公園と富山県中央植物園にて開催した。

東アジア国際植物分類学シンポジウム（10th East Asian Plant Diversity and Conservation Symposium 2023）を 10 月 28 日（土）～ 10 月 30 日（月）に大阪公立大学にての現地、およびオンライン配信でのハイブリッド方式で開催した。

・総会、評議員会

年次総会を 3 月 4 日（土）に千葉大学にての現地、およびオンライン配信でのハイブリッド方式で開催した（ニュースレター 89 号にて報告）。

評議員会を 1 回、3 月 2 日（木）に千葉大学にて開催した（ニュースレター 89 号にて報告）。

(2) 出版物の刊行

・学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 74 巻 1 ～ 3 号（計 3 冊）を発行した。

和文誌『植物地理・分類研究（The Journal of Phytogeography and Taxonomy）』第 71 巻 1 ～ 2 号（計 2 冊）を発行した。

・ニュースレター

『日本植物分類学会ニュースレター』を 88 ～ 91 号（計 4 号）を発行した。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し、目的に沿って活動を行なった。

- ・絶滅危惧植物専門第一委員会
環境省第 5 次レッドリスト改訂に向け、判定作業を行うとともに原稿作成を進めた。
- ・絶滅危惧植物専門第二委員会
2023 年 3 月 6 日に Zoom によるオンライン会合を開催し、蘚苔類・藻類・地衣類・菌類の各分科会の代表者により、進行状況について情報交換した。評価については、概ね順調に進行中であることを確認した。
- ・植物データベース専門委員会
国内の植物分類学系学術誌の情報ならびに、植物分類学関連の web データベースの情報整理を進めた。これまでに整理したそれらの情報の公開準備を行った。
- ・学会賞選考委員会
2023 年度第 22 回日本植物分類学会賞の受賞者を決定し、ニュースレター 88 号で報告した。
- ・論文賞選考委員会
2023 年度日本植物分類学会論文賞の受賞者を決定し、ニュースレター 88 号で報告した。
- ・大会発表賞選考委員会
2023 年度日本植物分類学会大会発表賞の受賞者を決定し、ニュースレター 89 号で報告した。
- ・ABS 問題対応委員会
委員会全体としての活動は特に行わなかったが、委員長の村上が分担者の一人になっている文科省から予算をもらって実施している ABS 対応支援事業を通じて本学会員の ABS 対応への支援を実施した。
- ・国際シンポジウム準備委員会
韓国、中国側と協力し、上述のとおりシンポジウムを開催した。
加えて、2022 年に日本学術振興会の研究成果公開促進費 (C) の申請を行い、2023 年 4 月に採択された上記科研費について、報告書を作成し、提出した。
- ・標本問題対応委員会
農林水産省からの貨物による植物の輸入に対する厳格化措置について会員へ ML を通じて情報提供を行った。
農林水産省植物防疫課と協議を行い、海外の博物館、大学などから送付される学術標本の場合は、それが輸入禁止品であっても廃棄措置前に確認連絡をしていただくよう特段の配慮を要請し、各地の植物防疫所に周知していただいた。
- ・研究・普及推進委員会
植生学会第 28 回大会の大阪市立自然史博物館植物標本庫見学ツアーに協力した。各委員が命名法やタイプに関わる研究相談や問い合わせへの対応、学校標本の状況調査・収集・研究、地方の植物研究の支援や地域の研究者との連携などに取り組んだ。各委員が行っている活動を整理し、委員会全体としての活動を標本、標本レスキュー、図書、命名・タイプに分け、それぞれにチームを作り対応することにし、準備を行っている。

(4) 表彰

- ・日本植物分類学会賞 (学会賞・奨励賞) の受賞者を決定し (ニュースレター 88 号で報告)、授与を行った。
- ・日本植物分類学会論文賞の受賞者を決定し (ニュースレター 88 号で報告)、授与を行った。
- ・日本植物分類学会大会発表賞の受賞者を決定し (ニュースレター 89 号で報告)、授与を行った。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・国内学会連合等への参加・連携を行った：日本学術会議、自然史学会連合、日本分類学会連合。
- ・The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT)、および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) と連携した。

(6) その他

- ・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行った。
- ・当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究 (The Journal of Phytogeography and Taxonomy)』の論文 PDF を J-STAGE で公開した。
- ・日本学術振興会の育志賞への学会推薦を行った。

2023 年度 一般会計 決算 (案) (単位: 円) (2023. 12. 31 現在)

収入の部	単価	数	予算	決算	予算との差異	
会費						
通常 (一般)	7,000	741	5,187,000	4,554,760	△ 632,240	注 1
通常 (学生/海外)	3,000	100	300,000	312,787	12,787	
団体会員	8,000	22	176,000	288,000	112,000	
自動振替手数料	132	143	18,876	17,820	△ 1,056	
APG カラーチャージ	18,000	32	576,000	594,000	18,000	
バックナンバー販売			40,000	109,500	69,500	
著作権使用料			120,000	132,696	12,696	
利息			50	18	△ 32	
雑収入			0	160,000	160,000	注 2
合計			6,417,926	6,169,581	△ 248,345	

支出の部	単価	数	予算	決算	予算との差異	
大会補助費			100,000	100,000	0	
講演会補助費			70,000	63,693	△ 6,307	
出版物印刷費						
APG vol. 74 (1, 2, 3)	960,000	3	2,880,000	2,560,653	△ 319,347	注 3
植物地理・分類研究 vol. 71 (1, 2)	720,000	2	1,440,000	1,560,702	120,702	
ニュースレター No. 88~91	55,000	4	220,000	191,400	△ 28,600	
学会誌編集補助費			280,000	215,040	△ 64,960	
英文校閲費			50,000	50,000	0	
出版物送料						
APG 送料	110,000	3	330,000	242,955	△ 87,045	注 4
和文誌送料	110,000	2	220,000	202,928	△ 17,072	
NL 送料	90,000	2	180,000	162,580	△ 17,420	
会議費			0	0	0	
学会賞表彰経費			97,000	27,751	△ 69,249	
自然史学会連合分担金			20,000	20,000	0	
分類学会連合分担金			10,000	10,000	0	
事務局管理費						
消耗品費			20,000	19,045	△ 955	
交通費			20,000	0	△ 20,000	
封筒等印刷費			0	0	0	
通信費 (小包手数料を含む)			60,000	42,907	△ 17,093	
手数料・その他			15,000	7,600	△ 7,400	
集金代行基本料金/資金振込手数料			5,762	5,690	△ 72	
集金代行振替手数料	132	143	18,876	16,200	△ 2,676	
レンタルサーバー使用料			28,050	31,520	3,470	
国際シンポジウム積立金			200,000	200,000	0	
予備費			100,000	0	△ 100,000	
合計			6,364,688	5,730,664	△ 634,024	

単年度収支	53,238	438,917	385,679
前年度からの繰越金	6,834,464	6,834,464	0
次年度への繰越金	6,887,702	7,273,381	385,679

注 1: 未納分を多く含むため。

注 2: 大会補助費 10 万円返還; 寄附 3 万円×2 件。

注 3: ページ数増加と物価高騰のため。

注 4: 同時発送が 1 件増えたため。

2023 年度 特別会計〔絶滅危惧種調査〕 決算（案）（単位：円）（2023. 12. 31 現在）

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	1,845,976	1,845,976	0	注 1
レッドリスト改訂のための原稿費（2024 年執行予定）	1,800,000	0	△ 1,800,000	注 2
合計	3,645,976	1,845,976	△ 1,800,000	
支出の部	予算	決算	予算との差異	
レッドリスト改訂のための事務委託費・原稿編集費	1,845,000	1,845,000	0	注 3
次年度への繰越金（2024 年執行予定）	1,800,976	976	△ 1,800,000	注 4
合計	3,645,976	1,845,976	△ 1,800,000	

注 1:環境省 2022 年度事業（分類学会 2023 年度事業）。

注 2:環境省 2023 年度事業（分類学会 2024 年度事業）。手続きが遅れたため。

注 3:環境省 2022 年度事業（分類学会 2023 年度事業）。

注 4:環境省 2023 年度事業（分類学会 2024 年度事業）。手続きが遅れたため。

2023 年度 特別会計〔国際シンポジウム〕 決算（案）（単位：円）（2023. 12. 31 現在）

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	975,700	975,700	0	
国際シンポジウム積立金	200,000	200,000	0	注 1
科学研究費補助金（研究成果公開促進費）	0	1,449,199	1,449,199	注 2
参加費	0	432,000	432,000	
雑収入	0	3,000	3,000	
合計	1,175,700	3,059,899	1,884,199	
支出の部	予算	決算	予算との差異	
シンポジウム開催費	1,175,700	2,118,827	943,127	
次年度への繰越金	0	941,072	941,072	
合計	1,175,700	3,059,899	1,884,199	

注 1:2023 年の開催に備えての積立金。一般会計より移換。

注 2:予算策定後に採択が決まったため

2023 年度 特別会計〔命名規約〕 決算（案）（単位：円）（2023. 12. 31 現在）

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	617,609	617,609	0	
合計	617,609	617,609	0	
支出の部	予算	決算	予算との差異	
次年度への繰越金	617,609	617,609	0	注 1
合計	617,609	617,609	0	

注 1:該当する支出がなかったため。

2023 年度 特別会計〔顕彰事業〕 決算（案）（単位：円）（2023. 12. 31 現在）

収入の部	予算	決算	予算との差異	
前年度繰越金	385,924	385,924	0	
一般会計より移換	0	0	0	
合計	385,924	385,924	0	
支出の部	予算	決算	予算との差異	
次年度への繰越金	385,924	385,924	0	注 1
合計	385,924	385,924	0	

注 1:該当する支出がなかったため。

第 2 号議案 2024 年度事業計画（案）

庶務幹事 西野 貴子

(1) 集会等の開催

- ・学術集会，講演会，研修会

年次学術集会（日本植物分類学会 第 23 回大会：3 月 8 日～3 月 12 日 仙台）を開催する。

2024 年度講演会を開催する。

2024 年度野外研修会を開催する。

- ・学術集会総会，評議員会

評議員会を開催する（3 月 8 日）。

年次総会を年次学術集会に合わせて開催する（3 月 11 日）。

(2) 出版物の刊行

- ・学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 75 巻 1～3 号（計 3 冊）を発行する。

和文誌『植物地理・分類研究（The Journal of Phytogeography and Taxonomy）』第 72 巻 1～2 号（計 2 冊）を発行する。

- ・ニュースレター

『日本植物分類学会ニュースレター』92～95 号（計 4 冊）を発行する。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し，目的に沿って活動する。

- ・絶滅危惧植物専門第一委員会

環境省第 5 次レッドリスト改訂の原稿作成と入稿のための作業を進める。

- ・絶滅危惧植物専門第二委員会

Zoom によるオンライン会合を開催し，蘚苔類・藻類・地衣類・菌類の各分科会の代表者により，進行状況について情報交換を行う。

- ・植物データベース専門委員会

植物分類学関連の web データベースの情報整理を進める。整理した情報の web 公開を実現する。

- ・学会賞選考委員会

- ・論文賞選考委員会

- ・大会発表賞選考委員会

- ・ABS 問題対応委員会

ナショナル・バイオリソース・プロジェクト（NBRP）を通じて文科省から予算をもらって実施してきた分類学・生態学分野の研究者への ABS 対応支援事業は 2024 年度も同じ予算規模で継続される。この事業の分担者になっている委員長の村上を中心に，本学会員向けの ABS 対応支援も継続する予定である。海外産の野生植物などを使って研究をしたいが，ABS への対応方法がわからないといったことがあれば，遠慮なく相談していただきたい。

DSI 問題，すなわち DNA データベース上の塩基配列情報についても，それが起源した野生生物の原産国

にどのように利益配分を行うかという問題については、CBD COP15 において利益配分のための多国間のメカニズムを構築して対応することに決まっていた。しかし、開発途上国が DSI についても従来通りの二国間のメカニズム (PIC と MAT のシステム) で対応することを主張し始め、さらに混乱している。本委員会では、今後も DSI 問題について注意深く情報収集をして、会員に発信していく予定である。

・国際シンポジウム準備委員会

・標本問題対応委員会

依然として国内では1機関のみの登録となっているワシントン条約特定科学施設への他機関の登録を推進するため、特に輸出入実績の要件の緩和について引き続き要望を行う。

標本の輸出入に関する相談を広く受け、問題事例の収集を行うとともに、標本輸出入についての支援、助言などを行う。

・研究・普及推進委員会

委員会内に標本、標本レスキュー、図書、命名・タイプに関するチームを立ち上げ、活動を開始する。2023 年度に引き続き、幹事会や他の委員会等と連携しながら、植物分類学の研究の推進、一般への普及、地域植物研究会の問題・課題や連携に取り組んでゆく。

(4) 表彰

- ・日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）の授与を行う。
- ・日本植物分類学会論文賞の授与を行う。
- ・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・国内学会連合等への参加・連携を行う：日本学術会議、自然史学会連合、日本分類学会連合など。
- ・The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) 等と連携、協力を行う。

(6) 次期会長と次期評議員の選出

選挙管理委員長を指名し、2025-2026 年度の会長と評議員の選挙を行う。

(7) その他

- ・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。
- ・当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究』の論文 PDF を J-STAGE で公開する。
- ・植物分類学関連情報（学術集会、研究動向、出版物、公募）を収集し、ニュースレター、ホームページ、メールニュース等で提供する。
- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。
- ・各賞への学会推薦を行う。

編集室
より

今号は学会賞や論文賞の報告だけでなく、昨年行われたシンポジウムや講演会の報告と盛りだくさんです。また、第 23 回大会では、久しぶりの全対面形式だけでなく、ポスター発表後にミキサーが開催されます。仙台で皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

(ニュースレター担当幹事 大槻 達郎)

2024年度 一般会計 予算(案) (単位: 円)

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異	
会費					
通常 (一般)	7,000	731	5,117,000	△ 70,000	注 1
通常 (学生/海外)	3,000	100	300,000	0	
団体会員	8,000	20	160,000	△ 16,000	注 1
自動振替手数料	132	143	18,876	0	
APG カラーチャージ	18,000	32	576,000	0	
バックナンバー販売			40,000	0	
著作権使用料			120,000	0	
利息			50	0	
雑収入			0	0	
合計			6,331,926	△ 86,000	

支出の部

大会補助費			100,000	0	
講演会補助費			70,000	0	
出版物印刷費				0	
APG vol. 75 (1, 2, 3)	960,000	3	2,880,000	0	
植物地理・分類研究 vol. 72 (1, 2)	720,000	2	1,440,000	0	
ニュースレター No. 92~95	55,000	4	220,000	0	
学会誌編集補助費			280,000	0	
英文校閲費			50,000	0	
出版物送料				0	
APG 送料	110,000	3	330,000	0	
和文誌送料	110,000	2	220,000	0	
NL 送料	90,000	2	180,000	0	注 2
会議費			0	0	
学会賞表彰経費			97,000	0	注 3
自然史学会連合負担金			20,000	0	
分類学会連合分担金			10,000	0	
事務局管理費					
消耗品費			20,000	0	
交通費			0	△ 20,000	注 4
封筒等印刷費			300,000	300,000	注 5
通信費 (小包手数料を含む)			50,000	△ 10,000	
手数料・その他			15,000	0	
集金代行基本料金/資金振込手数料			5,762	0	
集金代行振替手数料	132	143	18,876	0	
レンタルサーバー使用料			28,050	0	
国際シンポジウム積立金			100,000	△ 100,000	注 6
予備費			100,000	0	
合計			6,534,688	170,000	

単年度収支	△ 202,762	△ 256,000
前年度からの繰越金	438,917	△ 6,395,547
次年度への繰越金	236,155	△ 6,651,547

注 1: 会員数変動のため。

注 2: 学会誌との同時発送を年 2 回行う。

注 3: 学会賞受賞者の交通費を含む。

注 4: オンライン会議で補えるため。

注 5: 2025・2026 年度分の封筒、選挙用の封筒等を作成するため。

注 6: 2029 年の開催に備えての積立金。特別会計へ移換。

2024 年度 特別会計 [絶滅危惧種調査] 予算 (案) (単位: 円)

収入の部		予算	前年度予算との差異	注 1
前年度繰越金		976	△ 1,845,000	
レッドリスト改訂のための原稿費 (2023 年分)		1,800,000	1,800,000	
合計		1,800,976	△ 45,000	
支出の部		予算	前年度予算との差異	注 2
レッドリスト改訂のための事務委託費・原稿編集費 (2024 年分)		1,800,976	△ 44,024	
次年度への繰越金 (2025 年執行予定)		0	0	
合計		1,800,976	△ 44,024	

注 1: 環境省 2023 年度事業 (分類学会 2024 年度事業)。手続きが遅れたため。

注 2: 環境省 2023 年度事業 (分類学会 2024 年度事業)。

2024 年度 特別会計 [国際シンポジウム] 予算 (案) (単位: 円)

収入の部		予算	前年度予算との差異	注 1
前年度繰越金		941,072	△ 34,628	
国際シンポジウム積立金		100,000	△ 100,000	
合計		1,041,072	△ 134,628	
支出の部		予算	前年度予算との差異	
国際シンポジウム準備金		0	△ 1,175,700	
国際シンポジウム若手派遣		0	0	
次年度への繰越金		1,041,072	1,041,072	
合計		1,041,072	△ 134,628	

注 1: 2029 年の開催に備えての積立金。一般会計より移換。

2024 年度 特別会計 [命名規約] 予算 (案) (単位: 円)

収入の部		予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金		617,609	0	
合計		617,609	0	
支出の部		予算	前年度予算との差異	注 1
次年度への繰越金		617,609	0	
合計		617,609	0	

注 1: 該当する支出がないため。

2024 年度 特別会計 [顕彰事業] 予算 (案) (単位: 円)

収入の部		予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金		385,924	0	
合計		385,924	0	
支出の部		予算	前年度予算との差異	注 1
次年度への繰越金		385,924	0	
合計		385,924	0	

注 1: 該当する支出がないため。

日本植物分類学会第 23 回仙台大会実行委員会からのお知らせ

第 23 回大会 大会会長 牧 雅之 実行委員長 伊東 拓朗

仙台大会へ、多数の参加申込をいただき深く感謝申し上げます。発表登録を締め切った 1 月 19 日段階で、160 名以上の方に参加登録をいただいております。口頭発表 55 件、ポスター発表 68 件の申込がありました。発表方法の詳細につきましては、大会ウェブ上のプログラムに記載しておりますので、発表者の皆さまはぜひそちらをご覧ください、円滑なプログラム進行にご協力いただければ幸いです。

仙台大会の実施にあたりまして、以下にいくつかお知らせがございます。

1. 大会受付開始時間

3 月 9 日の 11 時から受付を開始いたします。13 時から公開シンポジウム（下記）が行われる関係上、3 月 9 日は 15 時過ぎまで、公開シンポジウムに参加される一般の方と学会大会に参加される方の受付を別に設置いたしますので、ご注意ください。大会参加者の皆さまは、大会参加者受付で受付をお願いいたします。

2. ポスターの掲示

ポスター賞エントリーの方は、大会受付開始時間からポスター賞発表のコアタイム開始時間までの間に掲示をお願いいたします。3 月 10 日の 12 時までは掲出していただいて結構です。一般発表の方は、3 月 10 日の 12 時から 3 月 11 日の 8 時 30 分の間に掲示をお願いいたします。3 月 12 日の 12 時までは掲出していただいて結構です。掲出時間を過ぎたポスターは大会実行委員会でご預かりさせていただきますので、会場の実行委員にお声がけください。

3. ミキサー

久しぶりの全面的対面形式による開催であることを踏まえまして、3 月 9 日のポスター発表後にミキサーを開催する予定です。軽いアルコール類やソフトドリンクとスナックを用意いたしますので、参加者の交流の場として利用していただくほか、ポスター賞発表の延長戦として、リラックスした雰囲気、若手研究者の皆さんと深い議論を交わしていただければ幸いです。ポスター発表のコアタイムが終了しましたら、会場の一角にて、ドリンクとスナックを供します。奮ってご参加下さい。

4. 公開シンポジウム

3 月 9 日の午後、公開シンポジウムとして以下の講演会を開催いたします。大会参加者の皆さまもぜひ、ご参加下さい。一般の方も無料でご参加いただけますので、周りの方にもお知らせいただければ幸いです。

発見者が語る植物の新種とその面白さ

【日時】2024 年 3 月 9 日（土）13 時～15 時 40 分

【場所】東北大学片平キャンパスさくらホール 2 階（仙台市青葉区片平 2 丁目 1-1）

【内容】日本の植物相は他国と比較して、すでに十分に解明されており、未知の植物はほとんど存在しないように考えられることが多いようです。しかしながら、21 世紀に入ってもこれまでに認識されてこなかった多数の新しい種が、国内で「発見」されています。この講演会では、そういった新種を発見された皆さんに、発見に至った経緯やエピソードについて語っていただき、身近に見られる植物にもまだまだ分かっていないことが少なくないことや植物の研究の面白さを感じていただければと思います。

13:00～13:05 公開シンポジウムの趣旨説明 牧雅之（東北大学）

13:05～13:30 みつけて、そして記載発表するまで 藤井伸二（人間環境大学）

13:30～13:55 キノコを食べる植物「菌従属栄養植物」の新種発見と生態説明 末次健司（神戸大学）

13:55～14:20 まだまだ見つかる、鹿児島県の植物 田金秀一郎（鹿児島大学）

14:20～14:45 古い標本から見つけた新種と雑種 山城考（徳島大学）

14:45～15:10 種の絡まりをほぐく：シダ植物倍数性複合体の種分類 藤原泰央（国立科学博物館）

15:10～15:35 見過ごされた山桜～紀伊半島の野生種クマノザクラ～ 勝木俊雄（森林総合研究所）

15:35～15:40 おわりに 伊東拓朗（東北大学）

皆さまに仙台でお目にかかれることを楽しみにしております。

NHK 連続テレビ小説「らんまん」制作チームへの特別賞授与のお知らせ

庶務幹事 西野 貴子

本ニュースレター8ページにあるように、NHK 連続テレビ小説「らんまん」制作チームへの特別賞の授与が評議員会決議を経て決定されました。

この特別賞の授与式は、3月の仙台大会にて行われます。どうぞ盛大な拍手をもってお祝いいただきますようお願い申し上げます。

名誉会員推薦のお願い

庶務幹事 西野 貴子

名誉会員については、会則第5条「本会（旧日本植物分類学会ならびに旧植物分類地理学会を含む）に50年以上在籍した通常会員、または植物分類学の発展に著しい功績のあった個人で、評議員会の議を経て会長が推薦するもの」と定められています。しかし、2019年の推薦をもって会員の在籍期間を確認するための資料が途切れたため、2020度の総会にて自薦、他薦は問わず、今後しばらくは情報を広く募集することに決まりました。

そこで推薦に向けて、会員の皆さまからの情報を随時お待ちしております。不確かでも結構ですので、まずはお心当たりがございましたら、下記の庶務幹事まで、ぜひご連絡ください。

ただし、評議員会を経た後、総会での会長推薦をもって名誉会員が決定されるため、ご連絡のタイミングによっては決定までに時間を要することもございます。どうぞご了承ください。

庶務幹事連絡先：西野貴子（jimu@e-jsps.com, 〒599-8531 堺市中区学園町1-2 大阪公立大学大学院理学研究科, Fax: 072-254-9932）

会員消息

